

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年通年	1・2	1	必修
担当教員			
建築学コース全教員			
添付ファイル			

講義概要	大学院の初期段階の演習として、実践的かつ簡易なテーマで、建築設計演習を行う。与えられた敷地条件を基に各自が建物用途を決め、エスキスから本図面作成、CG化、模型まで製作する。初期段階として2階建て程度を考える。		
授業計画	1	演習課題の説明 設計コンペにも対応できるような敷地の提案、設定を行い説明する。	
	2	課題についての討論 場所が概ねどのような場所か、考える。2階建ての建物と仮定する。	
	3	設計テーマの選定（1） 敷地の詳細調査を事前に行い、各自の考えを発表させる。 建物用途を決める。	
	4	設計テーマの選定（2） 構建物の容積率、建ぺい率等を鑑み建物規模を決定させる。	
	5	構造計画（1） 建物の構造種別や耐震性能を検討し、凡その荷重を拾う。	
	6	構造計画（2） 荷重に基づき柱割りを基に、スパン割り等を決める。	
	7	設備計画（1） 用途に適した、空調設備を仮定する。	
	8	設備計画（2） 衛生設備の検討を行わう。	
	9	建物概要報告（1） 各自選定した建物概要を発表する。	
	10	建物概要報告（2） 発表した建物に関して、講評を行う。	
	11	エスキス（1） 事前に描いてきた図面のエスキスチェックをする。	
	12	エスキス（2） 事前に描いてきた図面の詳細エスキスチェックをする。	
	13	設計チェック（1） エスキスを受け、設計図面を作成させる。都度チェックを行う。	
	14	設計チェック（2） エスキスを受け、設計図面を作成させる。都度チェックを行う。	
	15	設計チェック（3） 設計図面を作成させる。都度チェックを行う。	
	16	設計チェック（4） 設計図面を完成させる。都度チェックを行う。	
	17	中間発表（1） 製作図面を用いて、中間発表を全員の前で行う。	
	18	中間発表（2） 製作図面を用いて、中間発表を全員の前で行う。	
	19	図面修正（1） 中間発表で指摘などされた箇所の訂正を行う。	
	20	図面修正（2） 中間発表で指摘などされた箇所の訂正を行う。	
	21	CG化（1） 図面を基に、コンピューターでCAD図面を作成する。	
	22	CG化（2） 図面を基に、コンピューターでCAD図面を作成する。	
	23	CG化（3） 図面を基に、コンピューターでパースを描く。	

	2 4 CG化（４） 図面を基に、コンピューターでパースを描く。 2 5 模型製作（１） 図面やCADデータを基に、模型を作成する。 2 6 模型製作（２） 図面やCADデータを基に、模型を作成する。 2 7 模型製作（３） 図面やCADデータを基に、模型を作成する。 2 8 模型製作（４） 図面やCADデータを基に、模型を作成する。 2 9 最終報告（１） 図面、CAD、パース、模型を中心に発表会を行う。 3 0 最終報告（２） 図面、CAD、パース、模型を中心に発表会を行う。
授業形態	設計実習 建築設計の基本を理解する。
達成目標	実践的なテーマに即した設計等（意匠分野、環境分野、構造分野）を行う。本演習では、専門科目履修およびインターンシップの実施により得られた知見を基に、自身の取り組むべき課題を見出していく能力を身につけることを主な目標とする。 ここでは、意匠設計を中心に低層建物の設計を実践的に学び理解する。
評価方法・フィードバック	複数回ごとに演習（設計）成果を基発表してもらい、途中段階を評価してゆく。原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内やWEB等を通じて行うが、具体的な方法・タイミングなどは指導教員より都度伝える
評価基準	総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。秀：100点～90点、優：89点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	各担当教員に聞くこと。
履修条件	特になし。
履修上の注意	課題は、各担当教員により異なるため注意する。
準備学習と課題の内容	事前に担当教員から内容を聞き、周辺分野について調査しておく。また、設計全般について学部授業を基に復習しておく。毎回の予習復習時間は平均して1.5時間程度だが、開講スケジュールなどによって異なることから、必要に応じて指導教員より都度伝える
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	